

第 5 7 期 (2025 年度) 事業計画

本会が第 5 7 期 (2025 年 3 月 1 日～2026 年 2 月 28 日) に行う事業の実施計画は次のとおりである。

- ① 研究発表および学術講演会の開催 (定款第 4 条 1 号)
- ・ AJCPP2025 & 第 64 回航空原動機・宇宙推進講演会を次のとおり行う。
開催日 2025 年 3 月 19 日～21 日
場 所 西安 (中国)
 - ・ 第 56 期年会講演会を次のとおり行う。
開催日 2025 年 4 月 3 日、4 日
場 所 東京大学工学部および安田講堂 (東京)
 - ・ 第 57 回流体力学講演会／第 43 回航空宇宙数値シミュレーション技術シンポジウムを次のとおり行う。
開催日 2025 年 7 月 2 日～4 日
場 所 タワーホール船堀 (東京)
 - ・ The 35th International Symposium on Space Technology and Science & 14th Nano-Satellite Symposium (第 35 回 ISTS 徳島大会) を次のとおり行う。
開催日 2025 年 7 月 12 日～18 日
場 所 アスティとくしま (徳島市)
 - ・ 第 67 回構造強度に関する講演会を次のとおり行う。
開催日 2025 年 8 月 6 日～8 日
場 所 サンポート高松 (高松市)
 - ・ 2025 年度「空の日・宇宙の日」記念特別講演会を次のとおり行う。
開催日 2025 年 9 月未定
場 所 航空会館 (東京)
 - ・ 第 21 回全日本学生室内飛行ロボットコンテストを次のとおり行う。
開催日 2025 年 9 月未定
場 所 未定
 - ・ 第 63 回飛行機シンポジウムを次のとおり行う。
開催日 2025 年 10 月 15 日～17 日
場 所 沖縄県市町村自治会館 (那覇市)
 - ・ 第 69 回宇宙科学技術連合講演会を次のとおり行う。
開催日 2025 年 11 月 25 日～28 日
場 所 札幌コンベンションセンター (札幌市)
 - ・ 第 30 回スカイスポーツシンポジウムを次のとおり行う。
開催日 2025 年 12 月未定
場 所 未定

さらに、日本航空宇宙学会主催の支部関連の行事を次のとおり行う。

- ・ 北部支部 2025 年講演会ならびに
第 6 回再使用型宇宙輸送系シンポジウム 2025. 3. 10～11 (北部支部主催)
- ・ 中部支部第 68 期支部大会 2025. 3. 13 (中部支部主催)
- ・ 西部支部第 53 期支部総会・特別講演会 2025. 3. 17 (西部支部主催)
- ・ 関西支部第 71 期総会・特別講演会 2025. 4. 11 (関西支部主催)

以上のほか、関連学術団体との共催講演会等を次のとおり行う。

- ・ 安全工学シンポジウム 2025 2025. 6. 25～27 (本会共催)
- ・ 第 68 回自動制御連合講演会 2025. 11. 1、2 (計測自動制御学会他との主催)
- ・ 第 33 回衛星設計コンテスト 2025. 11. 22 (日本機械学会他との主催)

- ② 会誌その他図書の刊行 (定款第 4 条 2 号)

- ・ 学会誌「日本航空宇宙学会誌」を次のとおり発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数	発行年月日	巻	号	発行部数
2025 年 3 月 5 日	73	3	3,400 部	2025 年 9 月 5 日	73	9	3,400 部
2025 年 4 月 5 日	73	4	3,400 部	2025 年 10 月 5 日	73	10	3,400 部
2025 年 5 月 5 日	73	5	3,400 部	2025 年 11 月 5 日	73	11	3,400 部
2025 年 6 月 5 日	73	6	3,400 部	2025 年 12 月 5 日	73	12	3,400 部
2025 年 7 月 5 日	73	7	3,400 部	2026 年 1 月 5 日	74	1	3,400 部

- 2025 年 8 月 5 日 73 8 3,400 部 2026 年 2 月 5 日 74 2 3,400 部
- 和文論文集「日本航空宇宙学会論文集」を J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）によるオンラインジャーナルとして、次のとおり発行する。
- | 発行年月日 | 巻 | 号 | 発行年月日 | 巻 | 号 |
|----------------|----|---|-----------------|----|---|
| 2025 年 4 月 5 日 | 73 | 2 | 2025 年 10 月 5 日 | 73 | 5 |
| 2025 年 6 月 5 日 | 73 | 3 | 2025 年 12 月 5 日 | 73 | 6 |
| 2025 年 8 月 5 日 | 73 | 4 | 2026 年 2 月 5 日 | 74 | 1 |
- 国際論文集“Transactions of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences”を J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）によるオンラインジャーナルとして、次のとおり発行する。
- | 発行年月日 | 巻 | 号 | 発行年月日 | 巻 | 号 |
|----------------|----|---|-----------------|----|---|
| 2025 年 3 月 4 日 | 68 | 2 | 2025 年 9 月 4 日 | 68 | 5 |
| 2025 年 5 月 4 日 | 68 | 3 | 2025 年 11 月 4 日 | 68 | 6 |
| 2025 年 7 月 4 日 | 68 | 4 | 2026 年 1 月 4 日 | 69 | 1 |
- 和文オンラインジャーナル誌「航空宇宙技術」を J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）に随時発行する。
 - 英文オンラインジャーナル誌“Transactions of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences, Aerospace Technology Japan”を J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）に随時発行する。

③ 研究および調査（定款第 4 条 3 号）

- 航空宇宙ビジョンの維持改定および広報活動を行う。
- 航空宇宙の新分野の研究を行う。

④ 関連学会等との連絡および協力（定款第 4 条 4 号）

- 関連学術研究団体の行事に協力し、講演会等の事業を協賛・後援し、連携強化に努める。

⑤ その他目的を達成するために必要な事業（定款第 4 条 5 号）

- 2024 年度日本航空宇宙学会賞を次のとおり表彰する。

論文賞（2 件）：

- 「Performance Analysis of Runway Allocation for Arrival Flow Using a Queuing Model」
宮沢与和（電子航法研究所）、虎谷大地（電子航法研究所）、中村陽一（電子航法研究所）、森亮太（電子航法研究所）
- 「CFD Study on Penetration of Sonic Boom Applying a Wavy-Water Model」
陳柏勳（東京大学）、鈴木宏二郎（東京大学）

技術賞

[基礎技術部門]（1 件）：

- 「航空機塗料を用いたリプレット技術の開発及び飛行実証」
栗田充（宇宙航空研究開発機構）、笹森萌奈美（宇宙航空研究開発機構）、古賀星吾（宇宙航空研究開発機構）、飯島由美（宇宙航空研究開発機構）、郭東潤（宇宙航空研究開発機構）、鳥越大志郎（JAL エンジニアリング）、緒方隆裕（JAL エンジニアリング）、近藤真（JAL エンジニアリング）、オーウェル株式会社 J プロジェクトチーム

[プロジェクト部門]（1 件）：

- 「日本で初めて月面を探索したロボット LEV」
吉光徹雄（JAXA 宇宙科学研究所）、大槻真嗣（JAXA 宇宙科学研究所）、吉川健人（宇宙航空研究開発機構）、前田孝雄（東京農工大学）、國井康晴（中央大学）、富木淳史（JAXA 宇宙科学研究所）、鳥居航（JAXA 宇宙科学研究所）、宇佐美尚人（JAXA 宇宙科学研究所）、廣瀬智之（デジタル・スペース）、長谷川昭彦（昭特製作所）、室井秀作（昭特製作所）、SLIM プロジェクトチーム

奨励賞（3 件）：

- 松田治樹（宇宙航空研究開発機構）
「乱気流指数の精度評価と高度差・季節差による補正」
石田貴行（宇宙航空研究開発機構）
「Crater Detection Robust to Illumination and Shape Changes using Convolutional Neural Network」
山田健翔（宇宙航空研究開発機構）

「Capture Area Ratio and Drag Difference between Wind Tunnel and Flight Tests」他 2 件

宇宙ビジネス共創アワード（1 件）：

- 「宇宙環境の改善に資する、スペースデブリ除去サービス」

株式会社アストロスケール

- ・ 第 3 回航空宇宙技術遺産を次のとおり表彰する。
 - 日本独自の地球観測システムを切り拓いた 海洋観測衛星「もも 1 号(MOS-1)」
 - 日本初の軌道上有人実験施設―「きぼう」日本実験棟
 - 周回航続距離世界記録を樹立した航空研究所試作長距離機（航研機）
 - FJR710 による高バイパス比ターボファンエンジン技術
 - 民間超音速機実現のための低ソニックブーム設計技術実証（D-SEND）
 - スポイラ横操縦技術等により型式証明を取得した高速ターボプロップ機 MU-2A
- ・ 第 4 回航空宇宙技術遺産の認定を行う。
- ・ 2025 年度日本航空宇宙学会賞の選考を行う。
- ・ 第 25 回（2025 度）日本航空宇宙学会学生賞の受賞者を決定し、受賞者表彰を行う。
- ・ 月刊メールマガジンの会員向け刊行や X（旧 Twitter）での情報提供など、会員サービスの向上に努める。
- ・ DX 推進による会員サービスの一層の向上、学会業務の効率化に努める。
- ・ ジュニア会員制度を生かして、学会での中高生などの若手の発表をエンカレッジする。
- ・ 宇宙戦略基金などのアカデミアへの提供を目指して、産業界や政府関係機関との連携を強化する。併せて、非宇宙関連企業との連携を強化し、宇宙のイネーブラーとしての役割を強化する。
- ・ 政府に対して学術界のオーソリティとして各種の技術提言やコンサルティングの役割を担う。
- ・ 男女共同参画を推進する。
- ・ 事務局労働環境の整備を引き続き行う。

以上